

連載：原点

## 支えられながら

八千代東高等学校 唐崎 峻幸

私は講師として5年間、千葉県の学校に勤務して多くの先生方や生徒と関わることができました。その中でも、今年度正規採用となった八千代東高校とは縁が深く、臨時的任用講師として1年間、非常勤講師として1年間、そして正規採用として約5か月と、およそ2年半の期間関わりをもつことができました。この2年半の歳月は短いものではなく、私と同じ年度に1学年担任として本校に着任した教員は、今年度は3学年の担任をもっており、また当時入学したばかりの1年生も、今年度の末には3年間の集大成となる卒業式を控えるほどであり、感慨深いものを感じます。

5年間の講師時代は、1年間という短い期間の中で少しでも生徒の人生に関わりをもちたいと考え、何事にも全力で挑戦をすることを意識しました。がむしゃらに対話的な授業やアクティブラーニングを行ったり、放課後は生徒とともに全力で部活動に打ち込む日々を過ごしました。正規採用となり初任者研修を受けたり、講師とは異なる立場で生徒と関わることで、これまでは意識することがなかった講師と“教諭”の違いに気付くことができました。講師として関わってきた頃は、1年間というサイクルの意識があり、新しい環境で新しい生徒と出会いその1年間を頑張る、次の1年間はまた新しい環境で新しい生徒と…という1年間のサイクルを繰り返すという考え方をしていました。しかし、生徒は入学して卒業するまでの3年間で1つのサイクルであるので、講師として関わっていた自分はその“ $\frac{1}{3}$ ”にしか携わってきいていなかったのかと思い、教員のやりがいや感動も“ $\frac{1}{3}$ ”しか味わえていないのだろうと考えるようになりました。そして、私が関わってない残りの“ $\frac{2}{3}$ ”は他の先生方がご指導していただき、卒業まで導いてくださっていることに気付くことができました。この気付きを受けて、3年間を見越した指導の大切さ、さらには卒業までではなくその先も生徒の将来や成長を見守ることができるのだと改めて実感することができました。

今は初任という立場ですが、来年度からは3年間を通して1学年から3学年まで、授業では数学Iから数学IIIの授業を担当することになるのだと思います。これは、講師のときは $\frac{1}{3}$ しかできなかったことが、 $\frac{2}{3}$ まで携わることができるという、今までの私が経験できなかったことであり、これからの教員生活に期待を膨らませています。そのためにもまず、未熟な授業を初任者研修でスキルアップしていく事を第一に考え、指導教諭からのご指摘を吸収していきたいと考えています。数学の教材研究や板書の仕方、言葉遣いや表現方法など細かいところまで見ていただくことで、これまでの私は正しいことを伝え切れていなかったということを痛感しています。また、学級経営など担任業務の仕方もこの1年間で色々な先生から教えていただき、来年からの担任に備える1年間にしていくことが大事だと考えています。やっとなスタート地点についたような感覚でいます。

講師としての今まで、そして初任となった今でも、私は色々な先生方に支えていただきながら教員をしています。まだまだ、支えられる日々が続くとは思いますが、やがては私自身が生徒の人生に関わり支えていける存在に、先輩教員として若手の教員たちを支えていけるような存在になれるよう精進していく想いです。